

# かれんと

No.28

2006.3.25

Current:カレント

時代の流れあるいは  
新しい潮流

## どう変わった、最近の結婚観

あなたは今、ハッピーですか？

いま、なぜ結婚しない人が増えているのでしょうか。

いろいろところで話題になっている結婚問題。

以前は「結婚することがあたりまえ」という考えでし

たが、最近は「結婚してもしなくても自由」という風潮  
に変わってきています。

結婚は何のためにするのでしょうか。結婚によって、

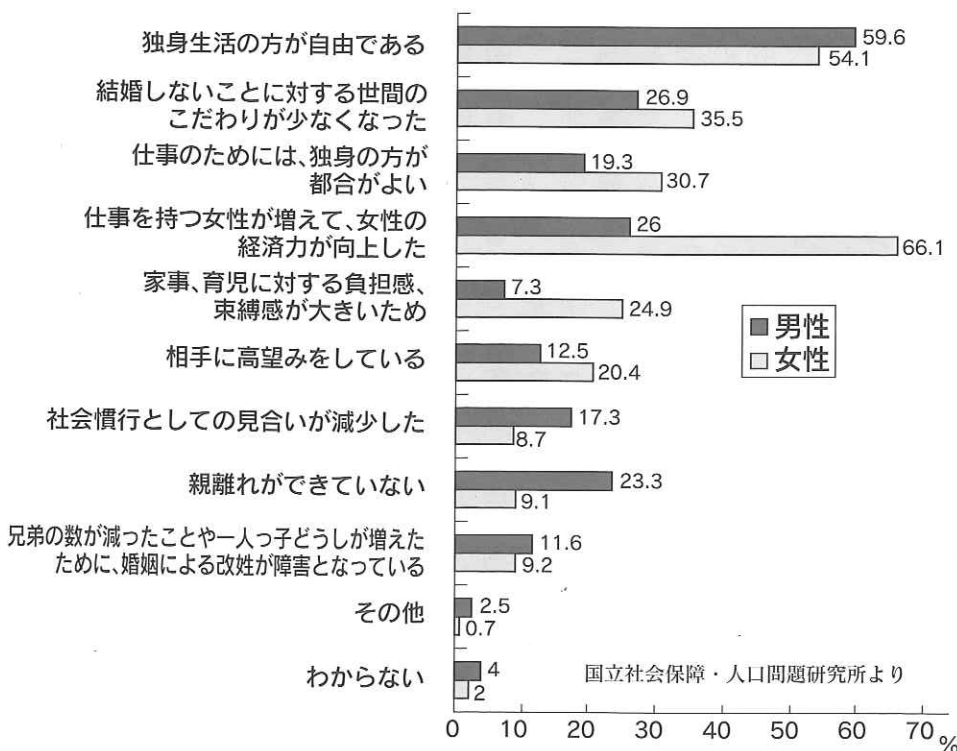
男も女も何がどう変わっていくのでしょうか。

今回は平成18年1月21日開催の栃木県女性の海外研

修報告会・男女共同参画フォーラムを取材しました。

長い人生、男と女のたどる幸せを考えてみましょう。

### 晩婚化の理由



### 主な内容

- トーク&トーク  
「どう変わった  
最近の結婚観」
- つばさの会  
会員による朗読  
「それぞれの結婚」
- 栃木県女性の  
海外研修報告
- かぬま市民のつどい
- ひとくちメモ
- 編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

# 男女共同参画フォーラム

## トーク&トーク

### 「どう変わった、最近の結婚観」

出席者 関口 忠雄 (53歳) (特別養護老人ホーム施設長)  
 小川 秀幸 (28歳) (緑化木生産業)  
 渡辺 一史 (23歳) (会社員)  
 小杉 志津 (56歳) (つばさの会鹿沼ブロック)  
 兼目千恵子 (55歳) (つばさの会鹿沼ブロック)  
 司会 塩入 佳子 (つばさの会鹿沼ブロック会長)

**司会** 今日は、トーク&トークということで、それぞれの世代の考え方を自由に話し合ってください。

#### 親世代の結婚観

**関口** 見合い結婚、恋愛結婚は半々でした。親世代である私たちの当時の結婚観は24歳頃まで、売れ残る前に結婚したいという感じで、適齢期を過ぎると地元の仲人さんがお世話をしてくれて、見合いをしてゴールインすることが普通でした。

私は見合い結婚ですが、家内は子どもたちによく言っています。「清水の舞台から飛び降りる思いで結婚したのよ」と。

結婚して互いの長所、短所に初めて気付くこともあります。恋愛結婚は、減点されていって離婚になるケースもありますね。

**小杉** 30数年前は見合い結婚が多く、家と家との結婚でした。



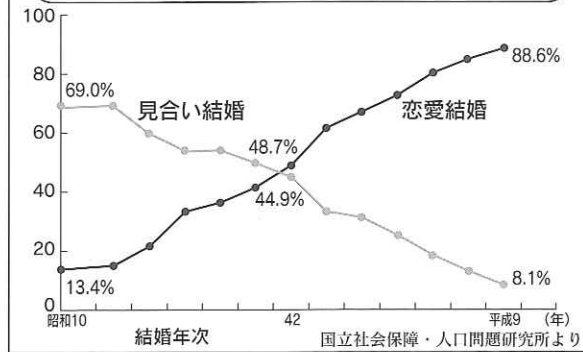
私の場合は親の反対を押し切った結婚でしたから、なにくそ！意地でも親には心配かけないでやろう、2人で頑張ろうと思いました。

結婚は、2人で手を取り合っって障害を乗り越えて行くものだと思います。子どもたちはその背中を見て育っています。

**兼目** 私は、一人っ子で、お婿さんを取るものだと言われてまし

た。母も婿取りだったので、婿取りはイヤだなと思っていました。婿取りの話があっても、はぐらかしていました。そして、今の夫と巡り合い、親には反対されたのですが、絶対成就させようと思いついた。

#### 恋愛結婚・見合い結婚構成の推移



#### 若い世代の結婚観

**小川** 昔と今の結婚の違いは、昔はお見合い結婚、今は恋愛結婚が普通という事だと思います。

**渡辺** 今の若者は、勢いで結婚してしまっている人が多いと思います。周りでも離婚する人が多く、親も「いくらでも戻って来なさい」と言っています。

**小川** 若くて結婚する人も多いし、30〜35歳を過ぎてても結婚しない人もいます。自分は32〜33歳までには結婚したいと思っています。

実家で仕事をしています。自立を考えると、自分で生活ができるようになってから嫁を貰いたいと思っています。

**司会** 結婚する相手の年齢は、何歳くらいがいいですか？

**小川** 来るものは拒まず(笑)。好きになった人が結婚相手と考えていますから、歳はそういう人が出てから聞いてください(笑)。

**渡辺** 若いほうがいいですね。周りから注目されたいし...

**司会** 渡辺さんのアクセサリーとして、対応できる人ということですね(笑)。

#### 結婚しない、出来ない理由

**関口** 今の若い女性の結婚観がいまひとつ理解できないですね。

**小川** 結婚していない周りの女性は、自立しているせいか、30歳くらいまでは、遊んでいたかと思っ

ているようです。出来ちゃった結婚をした人も「結婚っていいよ」と言っています。

30歳を過ぎてても輝いている女性が多く、賞味期限切れはないですね(笑)。優雅な生活をして暮らしている人が多いです。

**渡辺** 自分は人生何が分かるか分からないので、自立してから結婚した方が良いと思います。



**司会** 今の若い人は、相手の女性

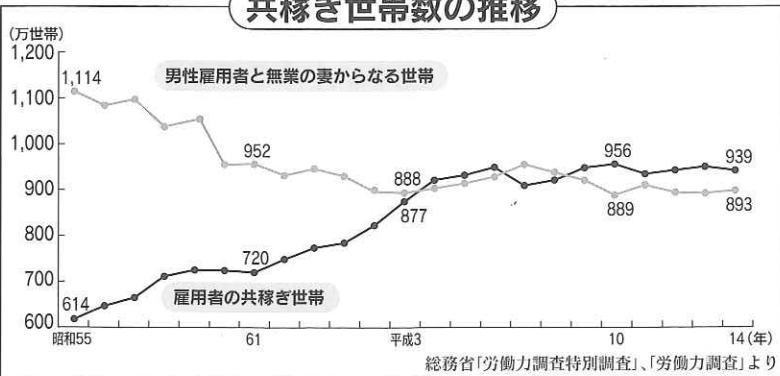
のことも思っていますね。私の息子にも結婚してない子がいます。遠慮して結婚話を持ち出せなかつたりします。

**小川** そんな親が欲しいくらいです。近所、親戚が集まれば、結婚の話になります。普通、親に自分の結婚観なんて言いませんよ。自分の感覚を大切にすれば、余計言いつらいし、恥ずかしいというか...



**渡辺** 結婚について、親に相談したことはないですね。

#### 共稼ぎ世帯数の推移





**男と女、理想の結婚**

**小杉** 娘は、結婚したらパートナ  
ーにできるだけのことは手伝っ  
てもらいたい、思っているよう  
です。

**司会** 原田正文さんの本「子育て  
支援とNPO」に、女性はどのよ  
うな男性を求めているかとい  
うと、ハンサム、高収入、家事・育  
児を手伝ってくれる人。男性は、  
自分の収入に文句は言わず、家  
事・育児をすべてしてくれる女性  
とあります。

**小川** 好き同士で結婚するのだか  
ら、2人でできまりを作って行けば  
良いと思います。僕は、母が早く  
亡くなったので、家事はしていま  
した。

**渡辺** 家事・育児はともかく、高  
収入、しかもキムタクのようにハ  
ンサムなんて言っていたらますま  
す少子化になってしまいますよ。

**兼目** 夫は、自ら台所に立ちませ  
ん。私は2人の  
息子に「自分か  
ら台所に立たな  
いと追い出され  
るよ」と育てまし  
た。子育ての中  
で、協力するのは  
当たり前じゃな  
いですが。  
**渡辺** 家事は自分  
に気が向いた時  
だけならやるが、  
男は金を稼いで  
くれれば、とい  
う考えです。



**働く女性の支援、協力について**  
**司会** 結婚難の理由を①結婚後は

男性に家計を支えてもらう傾向に  
ある。②若い男性の収入源と、不  
安定な社会状況。③結婚に対し生  
活水準を高く期待する、と東京学  
芸大の山田先生が挙げています。  
男性が家計を支えるといった意気  
込みは心強いですが、今の社会状  
況の中で、一馬力で奥さんと子供  
を養うのは大変ですね。働く女性  
の多い関口さんの職場ではどうで  
すか。

**関口** 老人介護の仕事は、9割が  
女性です。夜勤もあり、結婚適齢  
期や出産を控えた女性は、仕事を  
継続するか退職するかの選択を迫  
られます。優秀な人材は手放した  
くありません。結婚して、仕事と  
子育てを両立させるのは、大変難  
しいと思いますよ。女性が働き続  
けるのに良い職場環境を社会的な  
現場で作ってあげなければ、女性  
の力を十分発揮させることができ  
ませんね。

**小杉** 娘は看護師として働いてい  
ます。夫の協力を得ながら子育て  
も頑張っています。その職業に応  
じて対応できる保育所などがあれ  
ばよいのですが、難しいですね。  
2人目が欲しくても、親の協力  
なしでは無理ですね。行政でパ  
ックアップ体制が整うといいので  
すが。

**司会** 男女共同参画とは言っ  
ても、現実はまだまだですね。  
**兼目** 私の息子も結婚して共働き  
です。子どもが出来たらどうする

のでしょうか。やはり親の協力が  
必要なんですよ。

**小川** 農家の先輩を見ていると、  
奥さんは違った仕事をしているほ  
うがよさそうだし、子どもが出来  
るまでは親と別に住んだ方がつま  
くいくみたいです。

**渡辺** 自分も同じ仕事は避けたい  
ですね。家でも仕事でも一緒では  
言い訳もできないし…(笑)

**関口** 話の中に、自立して輝いて  
いる女性が多いとありましたが、  
結婚が遅くなっ  
ているのは、ど  
の国でも同じで  
すね。男性も、  
家事・育児にかかわり、俺の給料  
で食っていけという時代でもあり  
ませんから。私も、こっそり洗濯  
物を干していますよ。若い男性が  
積極的に家事に取り組み、楽しく  
やってくれたら、やがて来る介護  
にも良いかわりとなります。



**小杉** 仕事をしながら、様々な予  
育で経験が、自分育てにもなり  
ます。  
**小川** 多様性の時代ですが、自分  
勝手にやりがちなのもあって、  
気がついた時には、すでに遅  
しにならないようにしたいです。

**兼目** 結婚適齢期はとくに決めら  
れませんが、子どもを産み育てる  
時期も考えて欲しいです。  
**渡辺** 周りのプレッシャーにつぶ  
されず、自分の適齢期に結婚した  
いです。

**「それぞれの結婚」**

つばさの会会員による朗読

**一話** 理想の結婚にこだわって、  
結婚に踏み切れない女性が  
いる。理想の結婚って…。

**二話** 法のもの平等に従って結  
婚。納得できないことも多かつ  
た。しかし、結婚して子どもを  
育て、自分がひとまわり大きく、  
しなやかになった、とも思っ  
つ。

**三話** 自分が結婚を経験したから  
こそ、娘には「結婚しろ」「結  
婚を急げ」とは言えない。だが、  
もし息子がいたら、ぜひ結婚し  
て欲しいと思っただろう。

**四話** 就職して自立している未婚  
の私だが、結婚と家庭との両立  
の難しさを想像してしまっ  
つ。

**五話** 結婚したら、夫婦間トラブ  
ルも姑が息子である夫をかば  
う。嫁の私に落ち度があると非  
難し、女が耐えろと強いるのだ。

**六話** 長男の嫁は、独りぼつちの  
戦いだ。嫁の立場を改善せず、  
次の時代にバトンタッチすれば  
結婚の魅力なんて、なくて当た  
りまえ。

**七話** 男である夫でさえ、結婚し  
て疲れ、余裕のない娘を見て、  
「結婚して女の方が不利なんだ  
な」とつぶやく。30歳過ぎた嫁  
にも結婚しろ、なんて私は言え  
ない。

# 栃木県女性の海外研修に参加して

**今の私にできることは何か**

磯町 寺内澄子

事前研修中に、県内の施設を見学し、福祉の先進国と言われている外国の長所を取り入れている施設が数多くあることを知りました。しかし、先進国ノルウェーやフランスを訪れ、教育、福祉、環境、行政等の施設を見学し、まだまだ問題が山積している事も理解できました。

ホームステイ先のご家族は、ご夫婦二人暮らしでしたが、近くに娘さんの家族が住んでいて、いつも遊びに訪れるようです。言葉はほとんど通じませんでしたが、ご夫婦の様子からお互いに相手の良さを認め合い、大切に思っていることが感じられました。

この研修に参加したことで、自身の意識が変わりました。立派な施設が増えていますが、守らねばいけない現実があります。

常に社会に目を向け「私を今、必要としていることは何か」を考へながら、生活していきたいと思



**自分らしく生きるために**

松原 小島登志子

自分らしく生きることを邪魔しているのは何でしょうか？差別でしょうか？世間体でしょうか？経済的な問題でしょうか？どれもあてはまりませんが、それだけではありません。一番の問題は、自分の中にあるということ。今回の研修を通して学びました。

「すべてにおいて平等な社会である」と自信を持って言いきるノルウェーは、女性が自分の人生を自分でデザインできる国でした。

十九世紀には、高等教育を受けることも、政治に参加することも許されなかった女性たちの地位をここまで高めた原動力は「自分らしく生きたい」という思いだったのではないのでしょうか。一人ひとりができることを考え、勉強し、決まらぬまま、少しずつ世の中を変えていったのです。

「私たちにも、きっとできるー」そんな勇気を分けてもらった気がしました。

## 「市民のつどい」盛大に

昨年10月29日、鹿沼市民文化センターにおいて217人の市民が集い、男女共同参画社会をめざす第二十一回「かめま市民のつどい」が開催されました。

講師は、NHKの人間講座でおなじみの京都大学大学院教授、伊藤公雄さん。テーマは「男らしさ」という神話」でした。



特に今年は男性に焦点を当て、男女が協力し合い、激動の今を謳歌して生きるには、を探りました。日本の高度経済成長の立役者であった男性は、男らしさのロイを脱いで、家庭や自分自身の人生を見つめる時期に來ていると、指摘しています。

男女共に「ワーク・ライフ・バランス」いわゆる仕事や家庭生活、社会とのかわりを、バランスよく豊かに生きようと、投げかけた講演でした。

## ひとくちメモ

### パラサイト・シングル

学卒後も親に基本的生活を依存しながらリッチに生活を送る未婚者。まるで親を宿主に寄生(パラサイト)しているように見えることからついた。

収入の大半を小遣いに充てることができ、時間的・経済的に豊かな生活を送っている。

結婚すると生活水準が下がることから、結婚への動機付けが弱まる。未婚化の一つの要因になっている。

成人したら自立を求められる欧米諸国では見られない。(知恵蔵より)

## 編集後記



毎号、丁寧に議論してテーマを決めています。皆さんの人々との出会い、学びがいつばい。